

平成28年度第3回三田市総合教育会議 議事録

会議の名称	平成28年度第3回三田市総合教育会議
開催の日時	平成28年11月24日（木）14時00分～15時00分
開催の場所	市役所本庁舎3階302会議室A
出席した委員の氏名	森市長、鹿嶽教育長、中島教育委員、虫明教育委員、中上教育委員、吉田教育委員
出席した庶務職員の職及び氏名	城下理事、本田市民生活部長、岡崎学校教育部長、東野地域戦略室長、仲井市民文化室長、福本学校教育部次長、田中政策課長、外岡教育総務課長、古井学校教育課長、西本学校給食課長、後田教育総務課参事、上治政策課副課長、松田教育総務課指導主事
その他出席者	なし
傍聴者の人数	5人
議 題	・三田市教育大綱（案）について
会議の概要（結論）	・三田市教育大綱（案）について議論した。
公開・非公開の区分	公開
使用した資料	・三田市教育大綱（案）
連絡先	地域戦略室 政策課 電話（079）563-1111 内線（2211）

1 開会

東野地域戦略室長の司会により開会、配付資料の確認等

⇒「三田市総合教育会議の運営等に関する規程」第4条第5項に基づき、議事進行を森市長に交代

2 市長あいさつ

皆さんこんにちは。それぞれ非常にお忙しい中、教育長をはじめ、教育委員の皆さんにご参加いただきましてありがとうございます。今日は、平成28年度第3回の総合教育会議ということで、これまで議論してまいりました三田市の教育大綱について、大詰めの、そしてとりまとめの議論をさせていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

東京では初雪が降り、朝から大変な模様です。昨日も急に寒くなり、晩秋というよりも冬の足音そのものが迫ってきたような感じです。昨日は、駒宇佐八幡宮の百石踊りの行事等があるなか、朝一番には楽しみにしていた母子小学校・母子幼稚園の芸術のつどいに参加いたしました。特認校ということもありますが、改めて子どもの教育は、学校はもちろん、先生方の志のもとで行っていただくことは当然のこととして、地域が一緒になって行うということが非常に大事なことだということ子ども達の演技や保護者の応援、何よりも先生方の誠意ある準備等を拝見して感じました。また、学校を中心に地域がまとまっていくように感じました。これから特に来年度は、教育委員会でいわゆる学校区の問題を中心に議論を深めていただきます。今年度は、ただ今教育委員会において

最終段階のまとめを行っております「第2期三田市教育振興基本計画」と、市長部局が中心になって策定を進めております「第4次三田市総合計画後期基本計画」といったように、大きく三田がいわゆる成熟したまちにどのように進むかという議論が活発になる時期に来ています。やはり、学校は、地域の大きな拠点であるとともに、地域が学校を支えるということで、昨日は非常に寒かったのですが、拝見させていただいて非常に心が温まったという思いをいたしました。改めて教育に対して我々がしっかりと議論させていただき、市民を巻き込んだ三田のまちづくりを進めていきたいと思っております。

今日は、限られた時間ではありますが、慎重かつ建設的な意見交換をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

3 議事

(1) 三田市教育大綱（案）について ◆東野地域戦略室長から説明

中島委員：文言について確認させていただきたいと思います。2ページの「方針1」の「(4)就園・就学時の経済的支援」のうち、「子どもの将来がその生まれ育った環境によって左右されることがないように」とありますが、「環境」には「自然環境」、「家庭環境」、「地域環境」など、色々な「環境」が考えられます。ここでは「経済的支援」となっておりますので、「家庭環境」に修正した方がよろしいのではないのでしょうか。

森市長：表題は「経済的支援」となっており、「自然環境」はあり得ませんが、ある意味では「生まれ育った家庭環境」と限定していいのかどうか難しく判断いたしかねますが、今のご意見に対して事務局としてはいかがですか。

東野室長：単に「家庭環境」だけかどうかを含めまして、検討させていただきたいと思います。

森市長：事務局で精査をお願いします。

吉田委員：前回の色々な意見を踏まえて、随分分かりやすくまとめていただいたと感じました。教育環境の整備の部分ではこれから教育環境が整えられるのだという期待もできますし、キャリア教育の部分も分かりやすくなったように思います。「地域とともにある学校づくりの推進」の部分のコミュニティスクールに関しましては、先だっても教育委員会でこの理念の徹底を学校にも行うとともに、課題もあることをお話しさせていただきました。そうしたことは、学校も地域も両方で学校を育てていくという市長の理念がよく感じられると思いました。

私としては、1ページの基本理念の部分特に強い思いを持った部分でございまして、「学びのまち 三田」が一層浮き出してきて、「新たな三田ブランドの創出」ということが打ち出されてきたわけですが、具体的にどういった姿になればいいのか、大人だったらどのような姿が「学びのまち 三田」になっているのか、子どもだったらどうなのかを、もし市長がイメージされているのであれば、こうなれば三田のブランドになるということをお教えいただきたい

と思います。具体的には、例えば芦屋市であれば、「何をおいても教育一番」、学校も立派な施設を作り、先生方もしっかり力をつけて欲しいということを前面に出し、先生もそれを認識しておられますし、それを誇りとして芦屋市を打ち出しています。近隣の都市もそれぞれに感じられる部分もあるのですが、三田市として「学びのまち 三田」という新たなイメージとして具体的なものがございましたら教えていただきたいのですが。

森市長：私は、人口11万3000人のまちにしては非常に恵まれた学校教育あるいは高等教育機関といった教育資源があると思います。また、地域の方々が非常に多様ですので、先ほどお話しさせていただいた母子の取り組みやニュータウンでの取り組みなど、それぞれ違った形で行われておりますが、私の知る限りでは、非常に地域が学校を大切にされているように思っています。そういう意味では、三田の歴史の中で培ってきたものを、市長としては、やはりそうした積み重ねをさらに充実させていく、「人」が三田の大きな資源である、これをみんなで育てていっているというようなことで、それが三田の魅力となり、「三田はしっかりと教育を行っている、地域も教育を支えている」ということが、他の地域からも来ていただくし、三田に長く住んでいただけるという都市戦略的なことを市長としては願っています。そして、特に、「方針2」にも記載させていただいておりますが、世界の先行きが不透明の中で、日本がやはりこれからも経済だけではなく色々な所で貢献していく意味でも、一人ひとりがグローバルな視点に立ち、三田から世界を視野において社会貢献をする、そういった人材を三田から輩出する、それが三田だけではなく日本の評価に繋がり、大きな話になりますが、これから日本が生きていくのは「人」であると、その発信が三田からできれば非常にいいのかなと思っています。今それぞれ教育資源が豊かであるとともに、地域が非常に関わっているところ、そして何よりも教育関係者のレベルの高さをしっかりと発信し、これから特に力を入れてまいりますのが「生涯教育」、「生涯学習」だと思っています。私は、以前に生涯学習に携わってきたことがあります。高齢化社会でこれだけ元気な高齢者がいらっしゃれば、「子どもの時から学ぶ」、「人生すべて学びを通じて自分を高め、仲間づくりをする」、そういうことがこれからもっと行えればと思っています。三田の場合は、自然が豊かで、農業が都市部にあるにもかかわらず豊かであり、学校給食は当然のこと、それ以外でもこれから取り上げていただければと思っておりますし、市長部局としてもその辺をしっかりと応援していきたいと考えています。こんな思いで三田の都市ブランドを「学びのまち」としていきたいという思いで提案させていただきました。

吉田委員：ありがとうございます。たくさんお聞きしましたが、短くしたらどうなるのでしょうか。例えば具体的な姿として、小さな子どもからご高齢の方々まで、図書館をよく利用することが一つの指標になるとすれば、そういったことが具体的な姿としてここに記載することができるよう感じますし、コミュニティスクールを活性化しようとするならば、学校を核として市全体のそれぞれのコミュニティが盛り上がっていくようなものをイメージして、コミュニティスクールをもっと全面的に打ち出していくというのも一つの方法です。「地域コミュニティにおいて希薄化した人と人とのつながりを取り戻します。」という、この成熟した市民の活用

ということが、どこの場で具体的な姿として見えてくるのか、具現化してくるのかを思いながら読み込んだのですが、今一つイメージできませんでした。

森 市 長：ポイントは教育大綱の性格です。あまり具体のことを記載するよりは、具体は教育委員会で議論していただき、打ち出していただいて、市長部局はどちらかと言えば、教育大綱(案)に記載のある「洋式トイレ化」をはじめとする学校の環境等を周辺で支えていくようなイメージを持っています。教育大綱ですので具体の記載は分かりやすいのですが、どちらかと言えば大きく括った中で教育委員会に議論していただき、大きな道標のようなもので教育大綱を取りまとめる方がいいのではないかと考えています。毎年予算等を含めて教育委員会で発信していただき、市長部局とも調整させていただき、また、今後色々な課題が出てまいりますので、その都度行っただけであればよく、教育大綱である以上、具体の絞りはいかななものかという感じを持っています。

吉田委員：それぞれの部局や担当者が具体の方策を出していかないといけないと思います。

森 市 長：教育委員会の方でしっかりと具体的なものを支えていただきますとともに、「学びのまち」を都市ブランドといたしますので、市長部局では当然に地域戦略としていかに積み上げ、発信していくのか、両方の方向で考えていきたいと思っています。私があえて地域コミュニティのことを記載させていただいたのは、これから学校の適正規模・適正配置の議論が行われますし、三田の場合も自治会の加入率の向上や地域のリーダーの担い手不足など、色々な問題が過渡期を迎えています。私は、そういう時の切り口として学校を、当然教育の大事な場所ではありますが、やはり地域が支えているのですから、地域として学校が、コミュニティが学校を中心としてまとまっていくような形ができればと思っています。今後、教育委員会では「第2期三田市教育振興基本計画」が策定され、適正規模・適正配置の議論を行っていただきますし、また、市長部局でも公共施設マネジメントを行うなど、学校に関する議論も進めていきます。そういう意味では、これから2～3年の間は、色々な議論がなされます。そして、市民とも議論しながら、一つひとつ「学びのまち」を具体化していただければよいと思っており、そうした意味からもあまり決めつけない方がよいと思っています。

鹿嶽教育長： 前回の議論から上手くまとめていただいたと思っています。市長が言われたとおり、特に教育委員会でも来年度からスタートする「第2期三田市教育振興基本計画」の議論が大詰めを迎えており、学校教育を中心とした計画は「第2期三田市教育振興基本計画」で記載させていただき、教育大綱は市長が定めるものですので、その中で市長としてこの部分について力を入れていくということを教育大綱に示していただければと思っています。その辺りで市長の思いが伝わってきているのではと思っています。最初の「方針1」『切れ目のない教育、保育の実施』では、当然、教育と保育、就学前教育・保育の関係につきましては、教育委員会だけではできない部分もあります。次の「方針2」『グローバル人材の育成』では、ふるさと意識の醸成につきましては、学校教育と社会教育と合わせた部分もあります。次の「方針3」

『時代に応じた教育環境の整備・活用』では、教育環境を整備していくためには財源は非常に重要でありますし、公共施設全体をどのようにするのか考える必要がありますので、その部分での押し出し方もはっきり記載していただいております。次の「方針4」『地域ぐるみによる子どもの育ちと学びの支援』では、我々学校から見た地域との連携と、地域の方から見た学校を支えていただく部分、大変重要な点だと考えております。最後に「方針5」『生涯を通じて学び、その成果を活かすことができる環境の充実』では、生涯学習・生涯教育の部分は、教育委員会から市長部局に補助執行として事務をお預けしている形で進めていただく、また、市長も言われましたが、生涯学習は今後最も重要になってくる部分でもありますので、この点を最後に抑えていただいております、上手くまとめていただいたと思っております。ですから学校教育の部分で行えない部分につきまして、教育大綱でお示しいただいております、こうした形で平成33年度まで進めていただければと思っております。当然「第2期三田市教育振興基本計画」につきましても平成33年度までの計画でありますので、それぞれ進み具合につきましては毎年検証しながら進めていけばよいと思っております。もし、方向性が変わった場合は修正する場合もあるのであると思っておりますので、こうした形の教育大綱が望ましいと考えます。

森 市長：ただ今教育長が言われましたとおり、教育大綱の計画期間は来年度から5年間ですが、その都度見直せばよいと思っております。ある意味では吉田委員が言われましたようにより具体的に項目を増やしていくといった具合に、計画や事業の進捗を見ながら少し加えていくなど、柔軟に対応したいと思っておりますし、そうした形の方がよいのではと考えています。これで5年間を具体的に固めてしまうよりは、ある程度幅を持たせながら、少しずつ進めつつ付け加えていく、特に、来年度から再来年度ぐらいから教育について市民の関心も高くなっていく時期ですので、市民の意見も踏まえながら、方向性を修正する必要があるれば修正していきたいと思っております。

吉田委員：「学びのまち 三田」はすごく素敵だと思います。これが合言葉になって色々なことが積み重なっていくことで三田ブランドができていくと思っております。ですからどの部局においても「学びのまち 三田」が浸透していくことが、人を育て豊かな人づくりになっていくキーワードだと感じました。

森 市長：市長部局もできる限り教育委員会と連携し、市長部局内でもできる限り連携していきたいと思っております。特に「子どもの貧困対策」につきましては、市長部局の健康福祉部子ども室を中心に教育委員会ほか色々な関係部局と連携する体制をとりあえず整えました。まだ不十分な点もありますので、来年4月の組織改正で充実してしっかりと教育委員会と市長部局が連携していく色々な場面を作っていきたいと考えています。各委員が言われておりますとおり、「学び」が大きな目印、道標になるような形で、三田が目指す方向であるという形を作っていきたいと思っております。

中島委員：先ほどグローバル人材のお話がでしたが、2ページ「方針2」の「(2)グローバル化に対応した教育の推進」のうち、「就学前から11年間を見通した英語教育を推進します。」

とありますが、「英語教育」は語学のことだと思いますが、子ども達はこれから世界の文化についてもきっちり知っていく必要があると思います。そういった中で、「英語教育」の次に「国際理解教育」を加えていただければと思いますがいかがでしょうか。

福本次長：確かにグローバル人材の育成の部分では、国際理解教育も含めて「第2期三田市教育振興基本計画」の中では記載をしているところでもありますので整理をさせていただきたいと思っています。

森市長：私もよく分からないので教えていただきたいのですが、「国際理解教育」とはどのような内容になるのでしょうか。

中島委員：色々な分野があると思いますが、各国の状況や文化などを子ども達に教えるのも一つの国際理解教育だと思います。また、可能であれば、外国の子ども達との交流があればいいのではと思っています。

森市長：国際交流協会と連携させていただきたいと思います。市長部局でも姉妹都市提携を今後どのように進めていくのか見直しを含めて検討しておりますので、そうしたことも含めて子ども達にどのように国際理解教育を進めるのか検討していきたいと思っています。

森市長：それでは、この教育大綱（案）につきましては、ただ今皆様方から頂戴いたしましたご意見はもとより、現在来月14日までの間、実施中の「第4次三田市総合計画」及び「第2期三田市教育振興基本計画」のパブリックコメントにより寄せられましたご意見を踏まえ、事務局で整理したうえで、次回に改めて協議させていただきたいと思います。

なお、前回にも整理させていただきましたとおり、教育大綱につきましてはパブリックコメントは実施せず、ただ今申し上げました計画により頂きました意見等を踏まえながら、最終的に市長の判断でまとまさせていただきますので、よろしく願いいたします。

(2) その他

森市長：以上で、本日子定しておりました議事はすべて終了いたしました。折角の機会でもございますので、幅広く教育に関するご意見やご質問など、この機会に皆さんから何かございましたら、遠慮なくご自由にご発言ください。

中上委員：先日、今月初めに、大阪府の能勢町に視察に行きました。能勢町は、中学校2校、小学校6校が一貫校として1か所で行われています。お話を伺ったところ、学校の放課後に教室を外部の人々に貸しており、三田市でももう少し勉強したいという子ども達のために外部の方に教室を貸すことはできないのでしょうか。

森市長：状況がよく分かりませんので、もう少し詳しくお話しいただけますか。

鹿嶽教育長：能勢町では学習塾の環境があまりありませんので、子ども達が放課後に学ぶために学校の教室を提供してそこに講師を呼び、希望する子ども達が放課後に勉強しています。当然、一定の負担をしたうえで施設開放をしている状況でした。三田の場合は、学習塾の環境が整っておりますので、放課後学習塾に通う子ども達は非常に多いのですが、能勢町の場合はそうした環境がありませんので公の場を提供していることを伺いました。教室を提供できるかどうかは教育委員会が判断するのですが、今の三田の状況では営利的な企業に提供することには慎重に検討したいと考えています。

中上委員：特に市街地は近くに学習塾がありますが、少し市街地から離れた所では学習塾がなく、家庭の事情からもなかなか学習塾に通わせる時間もないことから、学校から教室を借りることができれば学習塾の講師を招いて放課後子ども達が残って勉強することができる環境づくりができないかと考えています。

そのほか、能勢町の話を加えますと、英語の授業でも中学校を卒業するまでに英検3級を取得する、中学校の教師が小学校5年生くらいから英語を教えており5年間で英検3級を取得させるということでした。これから益々英語は大切になってくると思いますので、特に小学校から英語に親しむ、自身にも小学2年生の子どもがいますが、学校で習った英語の歌を歌いながら帰ってきます。やはり小さいときからの英語の教育は非常に大切で、英語に親しみやすくなっており、今特に You Tube で流れているピコ太郎などは、英語でも替え歌を作って学校で歌っているようです。中学校の先生が小学生を教えることはできないと思いますが、特区などを工夫して中学校の先生が小学校で英語の授業を教えられるような環境づくりができないものかと思っています。

森市長：一度その辺りは教育委員会で幅広く議論をしていただいて、私もこの総合教育会議の場で聞かせていただきたいと思います。

中上委員：全国学力調査の結果は、三田市は兵庫県でも成績が良かったのですが、全国では秋田県が学力優秀につき、能勢町の先生が秋田県に2か月間授業の見学に行かれたという話を伺いました。三田市も学力は向上していますが、全国的な少子化で秋田県でも子どもの数が少ない中での全国一ということでもあり、先生が勉強に訪れ、それを地域に還元することは良いことですので、三田市だけでなく兵庫県の問題かも知れませんが、先生が勉強に行ければ良いのと思っています。今後考えられれば、さらに学力アップにつながり、三田の魅力アップにもなると考えますので一度検討していただければと思います。子を持つ親としてはそうなれば嬉しく思います。

森市長：その辺りも教育委員会で議論していただければと思います。全国学力調査につきましては、大阪府全体が危機感をもっておられ、かなりより効果的な施策を実施されています。教

員の資質向上は常に取り組まなければなりませんので、是非どのような方法が良いのか先進事例といたしますか、違う方法につきまして教育委員会で積極的に実施していただければ良いと考えます。その辺りは色々と予算要求等を含め、私の方で判断させていただきますので、活発な議論をよろしくお願ひしたいと思います。

中島委員：これから余裕教室や空き教室が多くなる中、各学校で色々利用して取り組まれていると思いますが、一つの教室に畳を敷いて日本文化を体験できる教室を作ったらいかがかと考えます。今の学校に日本文化があまり感じられませんので、道徳教育の強化を含め、畳の教室では色々な日本文化が経験できると思います。

森市長：おそらく、今後は学校の適正規模・適正配置の議論を来年度以降具体的に進めていただきますが、市といたしましては全体的な公共施設のあり方を総論的には今年度にとりまとめ、各論（各施設）につきましては今後3年間ワーキングチームを作りまして、教育委員会と連携しながら長期的な展望に立って、いわゆる小学校校区でありますとか、ある程度具体が見える時点で公共施設、特に学校の空き教室、あるいはどうなるか分かりませんが統廃合があれば大幅に変わってきますので、そういう時には市といたしましては地域の方々の意見を聞きながら色々な形での有効活用を行う必要があると思っております。その辺りの具体のタイミングは、来年度にある程度教育委員会で方向性を出された翌年度くらいに、市といたしましては3か年をかけまして個別のワーキングチームを作り、情報を収集しつつ地域の方とタウンミーティング方式で実施していきながら、公共施設、中でも学校は地域交流の拠点ですので、上手く活用していきたいと考えています。このことは、長いスパンで見れば、保育所や放課後児童クラブでも同じような問題が出てまいります。今は待機児童対策を行っていますが必ず空いてきますので、こうしたことも含めまして今後、学校・保育施設をある意味では色々な高齢者の方々の施設と一緒にすると色々なご意見があると思いますので、しっかりと我々も勉強したうえで色々なパターンをシミュレーションしながら、三田に合った形を検討して、また、地域の方々とも意見交換をしたいと思っています。したがって、今言われた点は、十分に大事なことと思いますし、具体的にある程度検討する時期がまいりましたら、早めに地域の方々と意見交換を行いたいと思っています。ただ、一番大事なことは、学校の子どもの教育環境ですので、教育環境に相応しくないような空き教室の利用はいかなるものか、今言われましたように、私はやはり日本の文化は色々な意味で大事ですので、スペース的に使うだけではなく、可能な限りカリキュラムとして、例えば放課後こども教室やこうみん未来塾などで、「グローバルな人材」＝「日本に愛着を持つ」、こうしたことは大事なことだと思いますので、幅広く教育委員会でも是非議論していただきたいと思っています。

吉田委員：小さな提案ですが、三田にゆかりのある三好達治の生誕120年だと思いますが、車瀬橋の所に三好達治の詩があります。車瀬橋だけでなく、できれば遊歩道などに三好達治の詩のレリーフのようなものが所々、まちに溢れているような感じになれば、大人も子どもも素敵な言葉に触れられて良いと思います。三好達治は定型詩から散文詩への移行期において非常に

重要な役割を果たしている偉大な詩人です。あの言葉を三田に活かしていきたいとずっと思っていたところです。小さなレリーフであるとか、細長い短冊のようなものを拵え、お店に飾っていただくなど色々な所で触れられれば素敵だなと思っています。

森市長：三好達治は、三田にいた頃は不遇な時代、ある意味では多感な時代であったと思います。三田も川本幸民をはじめ、ふるさとにゆかりのある人物にスポットを当てて色々な取り組みを進めていますが、意外と三好達治は知られておらず、もったいないと思っておりますので、市民生活部市民文化室で是非検討させていただきます。できれば、行政だけではなく、市民の方々からも色々な支援を頂きながら、みんなで三好達治の詩に触れ、できれば学校でも教育の中で触れていただければと思いますので、積極的に検討させていただきます。

森市長：それでは、本日は皆様方から活発なご意見を頂戴し、厚く感謝申し上げます。以上をもって本日の会議の議事は終了させていただきます。

東野室長：それでは、本日の会議はこれもちまして終了いたします。皆様におかれましては、長時間にわたり熱心にご議論いただき、誠にありがとうございました。

次回の総合教育会議につきましては、平成29年度予算に係る議論などを実施させていただきたく、来年1月6日（金）13時から、会場は本日と同じ場所での開催を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

事務局からは以上でございます。

本日は、誠にありがとうございました。

以 上